

「柏崎の橋」

37 米山大橋（青海川）

米山大橋は国道8号線の一部区間であり、青海川集落を囲む、急傾斜の谷に架けられた橋である。「三階節」で名高い霊峰米山、風光明媚な福浦海岸に赤く映える米山大橋の姿は、「観光柏崎」の拠点として、市内外の観光客を魅了している。

古来より旅人は鉢崎（現米山町）から鯨波の難路「米山三里」に悩まされた。米山三里は明治11年（1878）の明治天皇ご巡幸を機に国の補助を受け、明治14年3月以降大改修が行われた。



米山三里の難街道（柏崎附近名所）：小竹コレクション絵葉書
高低差のあるつづら折りの青海川の道

昭和32年から9年の歳月、約32億6千万円の巨額の工費をかけて、柏崎刈羽を縦貫する国道8号線改修・舗装工事が行なわれた。この工事の一部であった米山大橋の架設は、昭和39年10月4日に右岸橋台1基と取付道路から着手された。当初、谷根橋と呼ばれていたが、翌年には衆議院議員田中角栄氏（当時）により「米山大橋」と命名された。

地上約50mの橋桁上での作業は大変であり、特に半径500mのカーブを描く、橋桁のドッキング作業は最大のヤマ場となった。兩岸から橋桁が作られ、吊り上げられた19トンの橋桁を寸分のくるいもなく、隙間にはめ込む。その鋼材の伸縮を計算して両端には2cmの隙間があり、関係者の見守る中、作業員は橋桁の鋼材に鋸を打った。米山大橋の竣工をもって改修・舗装工事は終了した。橋長278.95m、巾員7.5m、高さ49.4m、総工費4億円であった。



来賓・一般市民合わせて5千人が詰めかける。橋のたもとから橋を見下ろす丘陵にまで人でうまった。この様子はBSN新潟放送テレビが収録、「米山大橋開通式と柏崎の観光」と題し放送した。（S41年度広報写真より）

昭和41年当時工事の様子
半径500mの曲線桁、陸橋が非常に長く、日本でも稀な高脚橋。風や地震への配慮もされた構造になっている。（S41年度広報写真より）



昭和41年11月6日米山大橋並びに国道8号線柏崎地区竣工式が盛大に開催された。「陸の孤島」から一転、経済発展の大動脈が整備されたと柏崎市民は歓喜に沸いた。

秋晴れの空の下、竣工式典、橋名塔の除幕式が行なわれた。渡り初めでは、テープカットと同時にファンファーレが鳴り響き、拍手と歓声がかどましたという。橋上は祝福の人でうまった。また、祝賀会場の市公会堂へ向う自動車パレードに人々はドライブウェイによる観光の時代の到来を感じたという。祝賀会において小林治助市長（当時）は力強く、感激に満ちた祝辞を述べ、歴史的な祝賀会となった。

●参考にした資料

- 『越後タイムス』昭和41年 『柏崎日報』昭和41年
「米山三里改修史」『柏崎の民俗と余禄』所収
山田良平者（382ヤマ）
『続こどものための柏崎物語』笹川芳三著（224ササ）
『米山大橋・国道8号線柏崎地区完工』柏崎市発行
（680ヨネ）
『8号国道柏崎地区竣工記念』建設省北陸地方建設局
長岡工事事務所発行（680ヨネ）